

# §八戸市民による文化芸術推進基本計画の検討

伝統の伝承・振興	文化財の保護・活用	現代的芸術文化の振興
----------	-----------	------------

- 文化のまちづくりビジョン (H 27.12)
- 1 市民の特色ある文化芸術活動=多文化を推進
  - 2 文化施設、アウトリーチで鑑賞機会や体験型プログラムを提供
  - 3 自主的に創造的な市民の文化活動を支援
  - 4 伝統文化を正しく伝え継承
  - 5 地域資源の再評価と活用
  - 6 アートプロジェクトによるまちづくり
  - 7 人材を育成し創造産業を活性化
  - 8 文化芸術活動により八戸の魅力を市内外に発信

(仮称) 八戸市民による文化芸術の推進のための基本計画構成

- 将来ビジョン【目指す街の姿】
- 1 文化芸術が身近に溢れる文化の街
  - 2 創造性に開かれた活力ある街
  - 3 多様性を認め合う共生の街
  - 4 多彩な文化コミュニティが息づく街

戦略群 (施策=戦術)

- 1 文化芸術に親しむ環境づくり
- 2 文化芸術の創造にチャレンジ
- 3 文化芸術で多様性を認め合う地域づくり
- 4 文化芸術による国際交流
- 5 文化芸術の担い手・支え手の育成
- 6 文化芸術の連携や協働

◎構成に対する指摘事項など「メイン事業は何か、主軸が分かりにくい」「刺さらない」  
(多文化共生や国際交流の玉が限定的で戦略の3と4は統合)

アートプロジェクト等新たな取組も実現したが全ての項目が十全に展開された訳でなく課題も残った。

<アンケート等で浮かび上がった課題> <新たな取組の成果> 両者の違い

◎活動者の視点

- ・活動への認知や参加が広がらない (参加者は関係者や知人ばかり)
- ・施設の不足
- ・発表場所や活動機会の不足
- ・後継者不足

◎観客の視点

- ・施設や企画への認知が低い
- ・認知が低い人は関心も低い
- ・関心が低い人は評価も低い
- ・関心は多方面に広がっている
- ・情報入手手段は世代で二極化

◎障がい者の視点

- ・鑑賞の機会が極端に限定的

◎八戸工場大学

- ・工場に着目したアートプロジェクト
- ・入口は工場好きの集まりで、様々なアートワークショップを実施
- ・企業のIRに掲載、株主説明にも

◎市民集団まちぐみ

- ・日本建築学会論文の研究対象に
- ・はっち⇄まちぐみの関係から、まちぐみと市民との間に社会的関係が構築され、その結果、次なる活動の展開や市民のまちぐみへの加入に循環。

◎横丁オンリーユースアター

- ・街中を劇場化した横丁でのパフォーマンスアート。中央からアーティストが応募する企画に成長。

◎ポイント1 検証

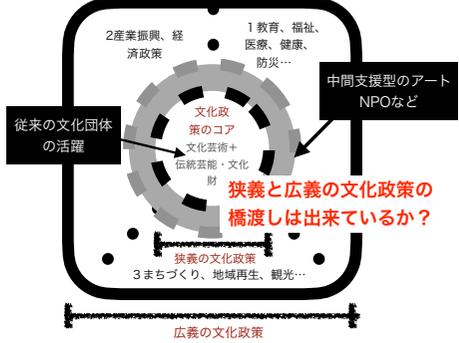
- ・WHAT? (何が問題?)
- ・WHY? (何故、問題?)
- ・WHY NOT YET? (何故まだそれが出来ない?)
- ・HOW? (それができるにはどうすれば?)

課題解決の仮説を立ててトライ&ラン

◎ポイント2 文化政策を取り巻く環境変化

- 1 文化政策の領域の拡大
- 2 担い手の多様化
- 3 文化政策と都市・産業政策との結び付き

「再考、文化政策」  
(吉本光宏氏)より



◎ポイント5

拠点施設の役割 公共文化施設の使命は? 例えば、はっちは協働型企画を重視。新美術館は「学び」をキーワードに教育との連携や、「5館連携」による全国に訴求力を高める新たな動きも。

はっち・マチニワ: つながり・賑わい・暮らしのテーマ×協働・市民活動応援・創造と交流の拠点づくり

- 新美術館: 美術館機能/アートの学び/アートのまちづくり
- 公会堂・文化ホール: 芸術文化振興/市民生活向上/地域課題解決 (指定管理者)
- ブックセンター: 読む人を増やす/書く人を増やす/本で街を盛り上げる
- 図書館: 資料充実/レファレンス、展示、お話し等サービスの充実/関係機関との連携
- 是川縄文館・博物館: 史跡や遺跡の保存活用プラン内で位置付け。館としての運営方針は定めていない。
- VISITはちのへ: 交流人口拡大⇄三社大祭・えんぶり関連の商品づくりとプロモーション (中期運営方針) 地場産品振興⇄商流づくりとプロモーション

<マネジメント>

- 予算
- 運営組織
- 専門スタッフ (プログラムオフィサー、コーディネーター等)
- アーティスト
- 運営スタッフ
- 文化施設
- 地域・企業、市民の協力
- 実施時期や複数年のプランニング
- 効果検証、評価

これらを担保する裏付けとなる計画づくりを目指す

◎ポイント3 担い手 担い手の多様化は進んでいるか? 行政の役割は? 行政の弱点を補完する担い手の必要性は?

団体 (担い手) 類型: プロフェッショナルな芸術団体/アマチュアの文化団体/芸術鑑賞団体/文化施設指定管理者/民間文化施設運営者 / 中間支援型組織 (若い才能の発掘、創造や発表の場の提供、地域との出会いのコーディネート、教育、福祉など異分野との橋渡しをする) 組織類型: 株式会社、一般財団・社団、公益財団・社団、アートNPO、任意団体 強み: 専門性、ノウハウ・経験、ネットワークを有する

◎ポイント4 計画の時間軸 10年程度の時間軸の中で、5年間に戦略的に取り組むことは何か? 「変わったね!」が次の牽引に

	2021	2022	2023	2024	2025	2026~2030	2031~
計画に基づく取組	新たな取組の芽を育てるトライ&ランの期間					「芽」を更に大きく育てる期間	多文化都市の次のステップへ
実践 (トライ) ⇒ 反応の読み取り (ラン) ⇒ 実践 (トライ)							
トピックス	◎11月新美術館オープン		◎公会堂・公民館リニューアル		◎三陸復興国立公園指定10年	◎2030年三社大祭310年	◎はっち20周年 ◎新美10周年
	◎是川遺跡世界文化遺産登録?						